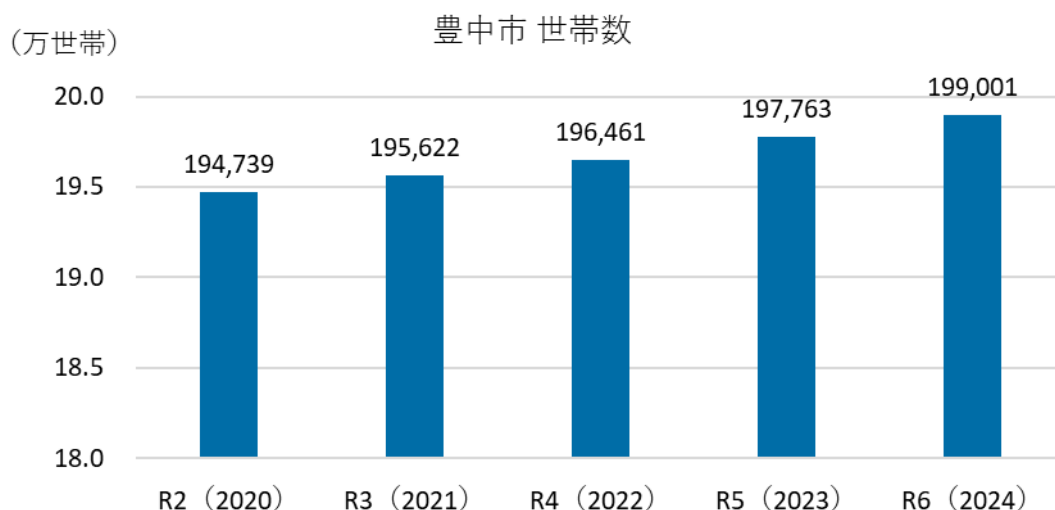


2 世帯

2.1 世帯

(1) 全市域

令和 6 年（2024 年）における豊中市の世帯数は 199,001 世帯となった¹。人口が令和 3 年（2021 年）から減少傾向にあるのに対し、世帯数は一貫して増加し続けている。令和 6 年の世帯数は、令和 2 年（2020 年）から 4,262 世帯（2.2%）の増加である。平成 30 年（2018 年）から令和 4 年（2022 年）までの増加数は 5,924 世帯（3.1%）、令和元年（2019 年）から令和 5 年（2023 年）までの増加数は 4,879 世帯（2.5%）だったため、増加のペースは年々緩やかになっている。

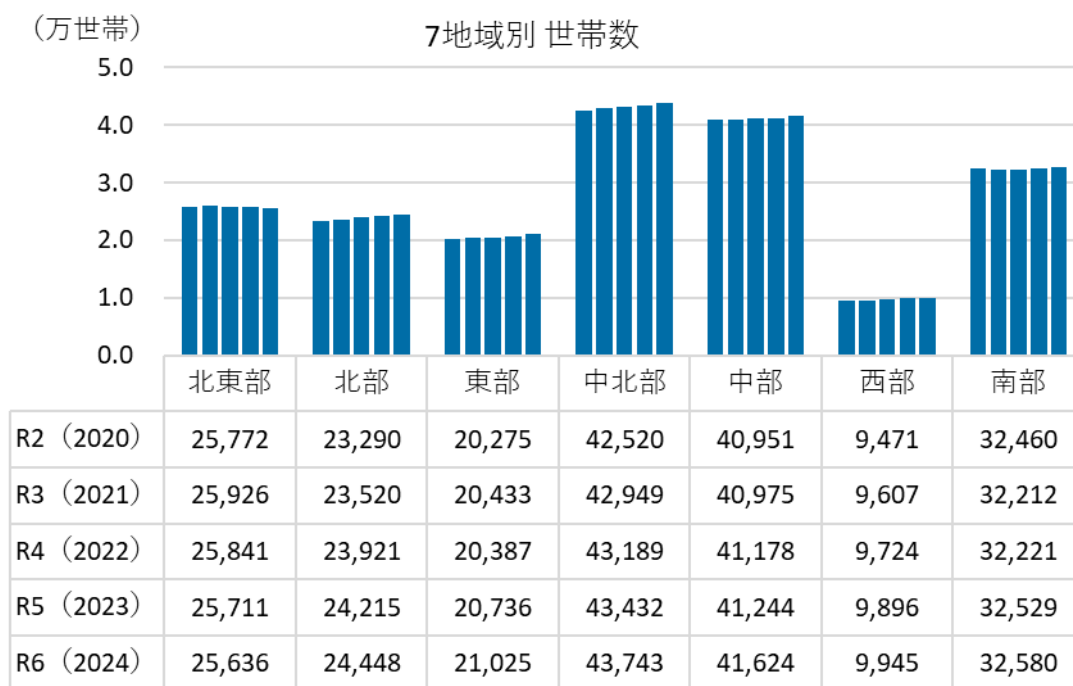


(2) 7 地域

令和 5 年（2023 年）における世帯数は、中北部（43,743 世帯）、中部（41,624 世帯）、南部（32,580 世帯）の順で多い。

令和 2 年（2020 年）からの世帯の増加数は、多いほうから順に中北部（1,223 世帯・2.9%）、北部（1,158 世帯・5.0%）、東部（750 世帯・3.7%）、中部（673 世帯・1.6%）、西部（474 世帯・5.0%）、南部（120 世帯・0.4%）である。唯一、北東部では世帯数の減少が見られる（▲136 世帯・▲0.5%）。

¹ 本レポートでは、世帯の集計にあたり居住実態はふまえていない。同じ住居に住んでいても別世帯として住民基本台帳に登録されている場合は、異なる世帯としてカウントされている。



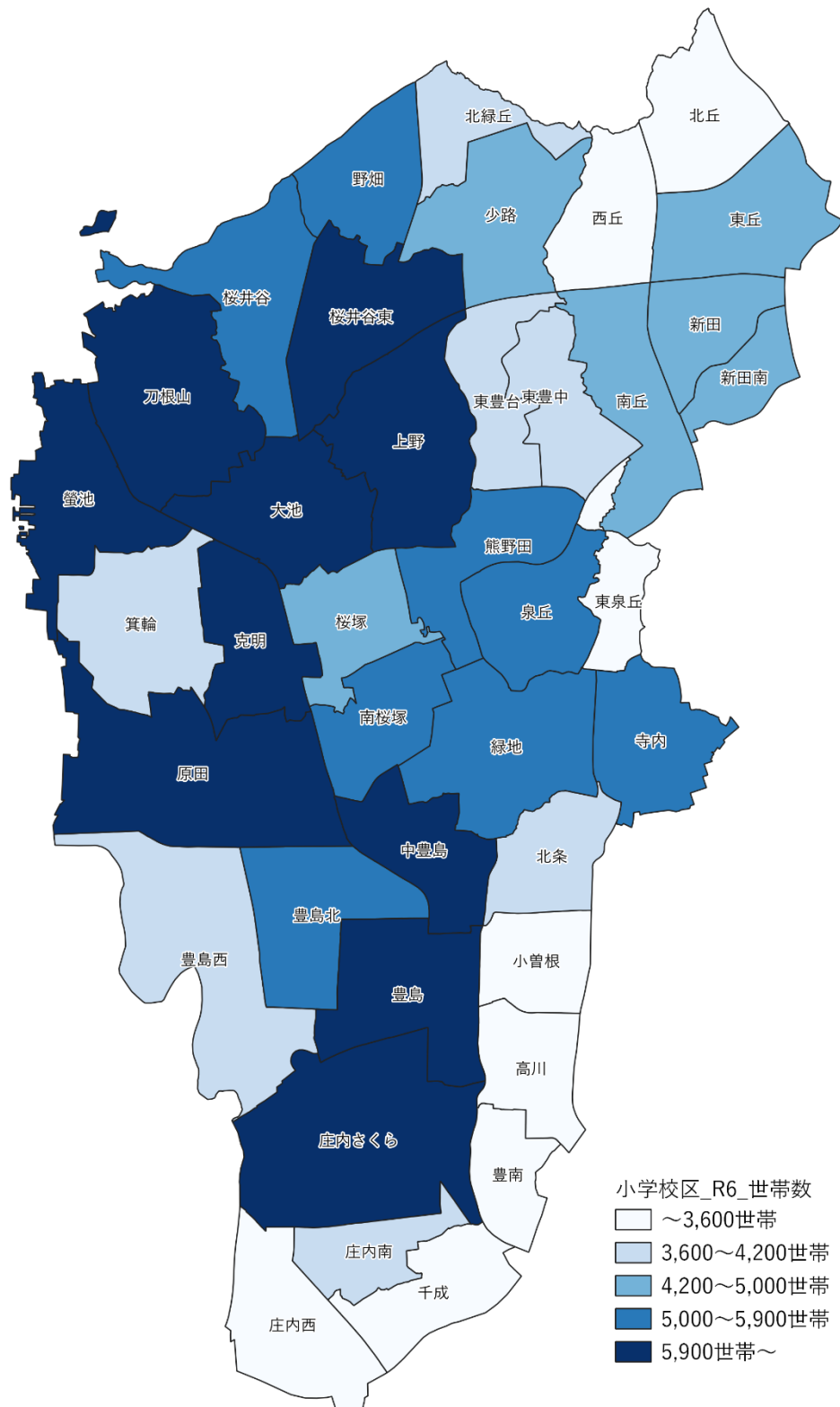
(3) 小学校区

令和 6 年（2024 年）の世帯数を小学校区別に見ると、世帯数が多い校区は順に、庄内さくら（13,783 世帯）、豊島（7,721 世帯）、刀根山（7,407 世帯）、上野（7,029 世帯）、大池（6,972 世帯）である。世帯数が少ない校区は、千成（3,342 世帯）、北丘（3,378 世帯）、高川（3,382 世帯）、豊南（3,421 世帯）、小曽根（3,465 世帯）である。

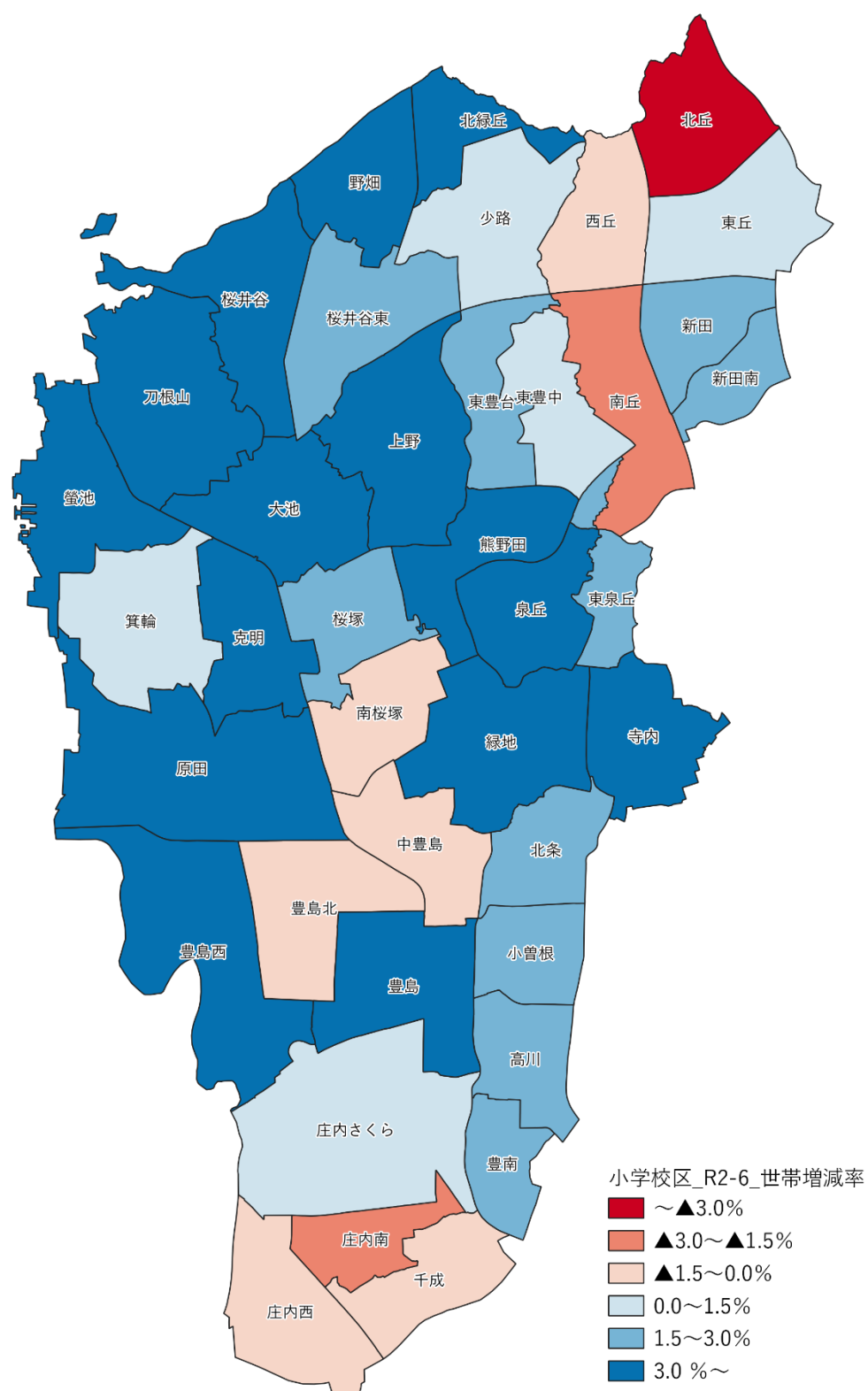
令和 2 年（2020 年）からの世帯数の増加率が高い校区、減少率が高い校区はそれぞれ以下のとおりである。

世帯数の増加率が高い小学校区					世帯数の減少率が高い小学校区				
校区名	R2	R6	増加数	増加率	校区名	R2	R6	減少数	減少率
北緑丘	3,197	3,606	409	12.8	北丘	3,549	3,378	▲ 171	▲ 4.8
桜井谷	5,093	5,425	332	6.5	南丘	4,971	4,831	▲ 140	▲ 2.8
寺内	5,009	5,334	325	6.5	庄内南	3,673	3,606	▲ 67	▲ 1.8
螢池	5,809	6,117	308	5.3	千成	3,386	3,342	▲ 44	▲ 1.3
泉丘	4,892	5,138	246	5.0	西丘	3,632	3,591	▲ 41	▲ 1.1

小学校区別 令和 6 年（2024 年）世帯数



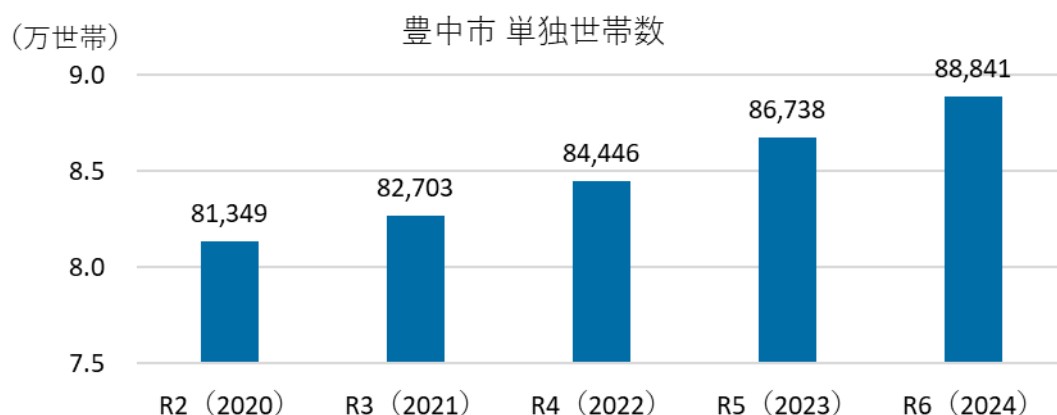
小学校区別 令和 2～6 年（2020～2024 年）世帯数増減率



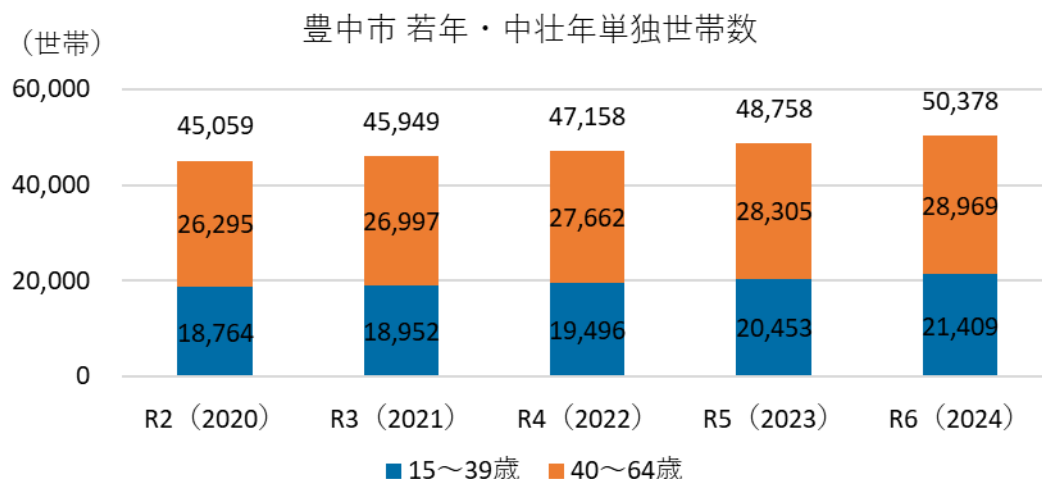
2.2 単独世帯

(1) 全市域

単独世帯（1人のみで構成された世帯）は増加傾向にある²。令和6年（2024年）の単独世帯の数は88,841世帯であり、令和2年（2020年）からは7,492世帯（9.2%）の増加となっている。平成30年（2018年）から令和4年（2022年）までの増加数は7,260世帯（9.4%）、令和元年（2019年）から令和5年（2023年）までの増加数は7,310世帯（9.2%）であり、おおむね一定のペースで増加し続けている。

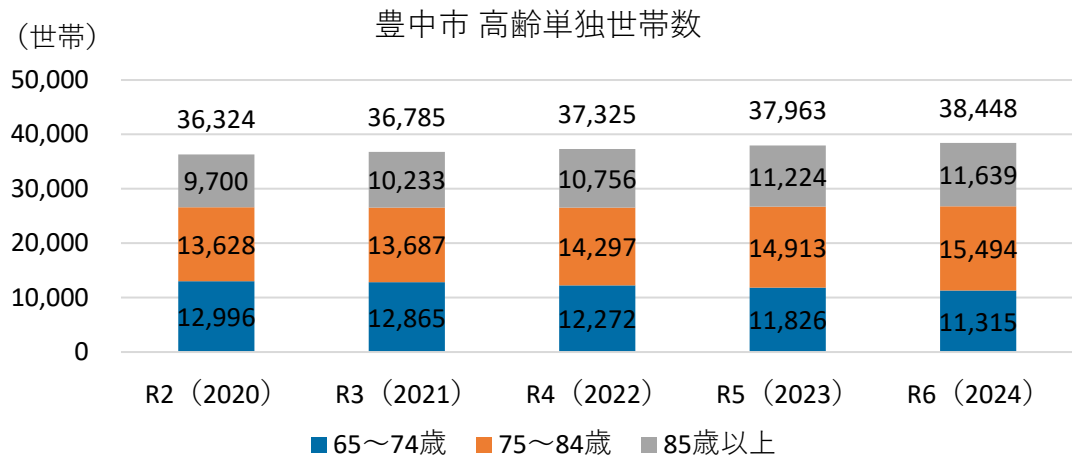


若年・中壮年層（15～64歳）の単独世帯は、令和2年（2020年）からの5年間で、45,059世帯から50,378世帯へ、5,319世帯（11.8%）の増加である。



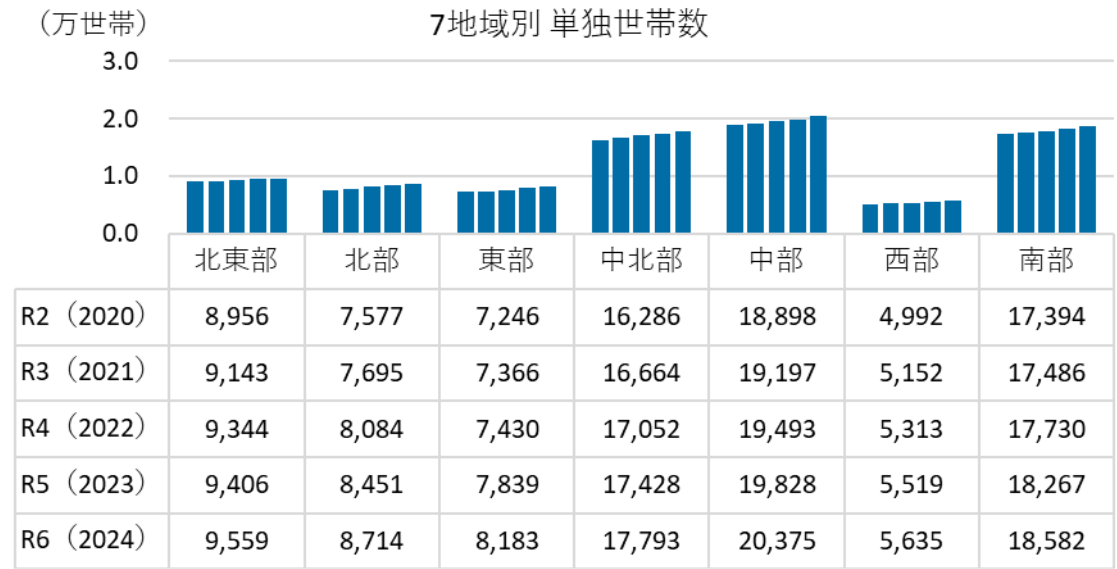
² 本レポートでは、1つの世帯番号に1人のみが登録されている場合を単独世帯として集計しており、居住実態は反映していない。

高齢者（65歳以上）の単独世帯は、令和2年（2020年）からの5年間で、36,324世帯から38,448世帯へ2,124世帯（5.8%）の増加である。なかでも85歳以上の単独世帯は1,939世帯（20.0%）の増加となっている。



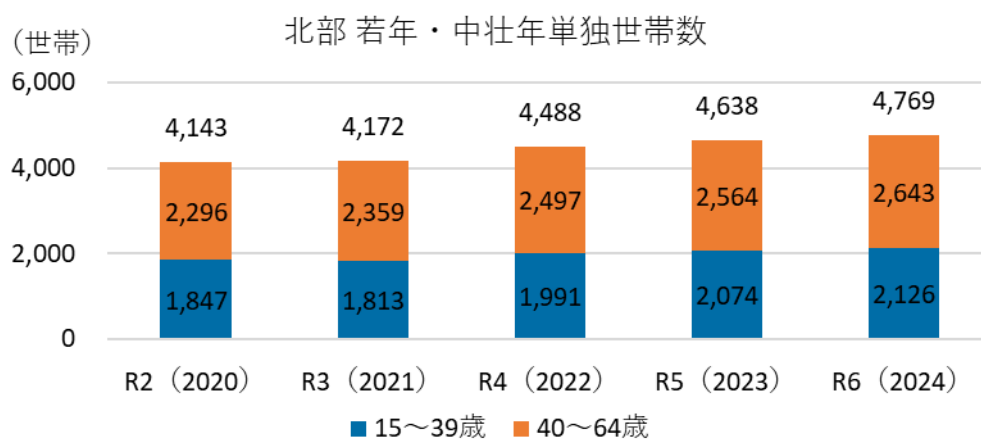
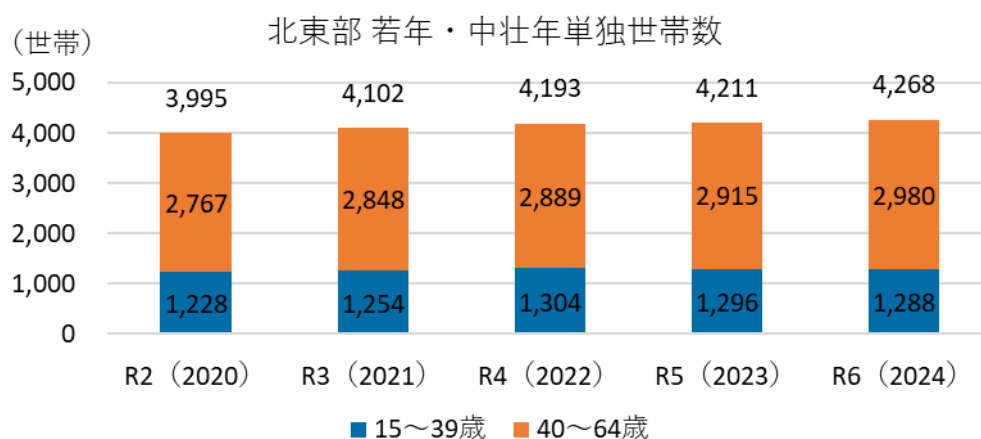
(2) 7 地域

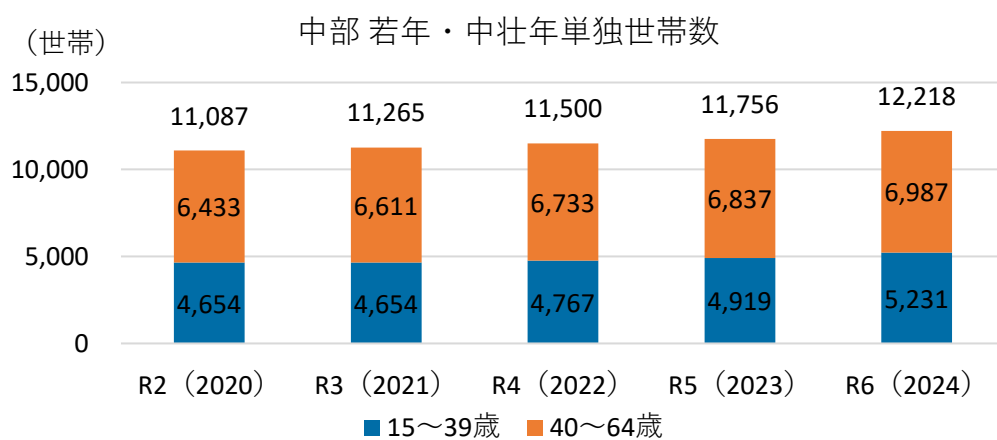
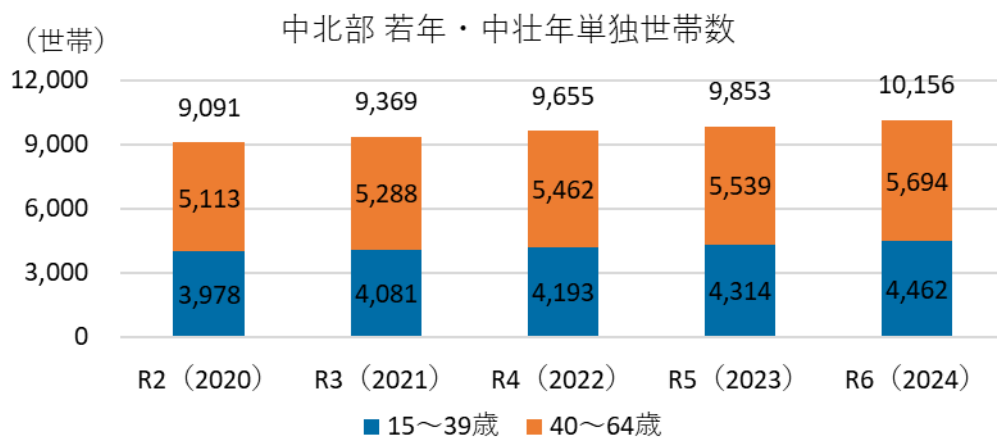
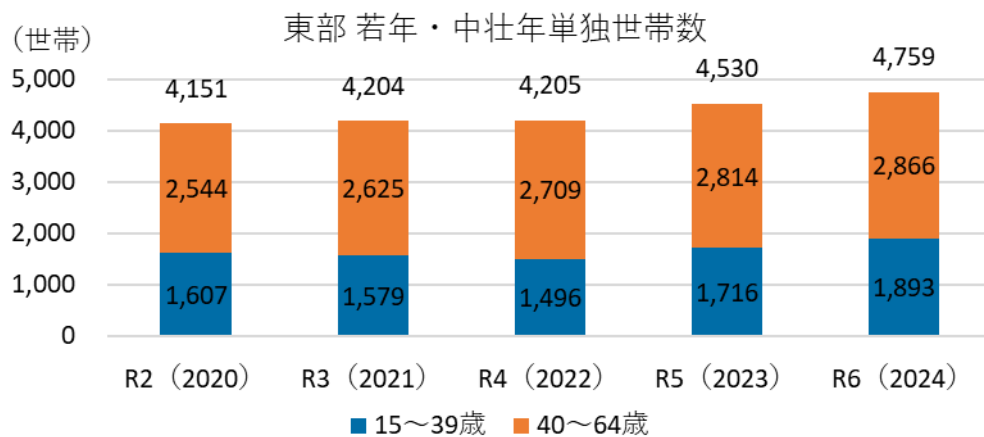
いずれの地域でも、単独世帯は増加傾向にある。令和2年（2020年）から令和6年（2024年）にかけての増加数が多いほうから順に、中北部（1,507世帯・9.3%）、中部（1,477世帯・7.8%）、南部（1,188世帯・6.8%）、北部（1,137世帯・15.0%）、東部（937世帯・12.9%）、西部（643世帯・12.9%）、北東部（603世帯・6.7%）である。全世帯数に占める単独世帯数の割合は、南部（57.0%）、西部（56.7%）、中部（49.0%）、中北部（40.7%）、東部（38.9%）、北東部（37.3%）、北部（35.6%）の順に高い。

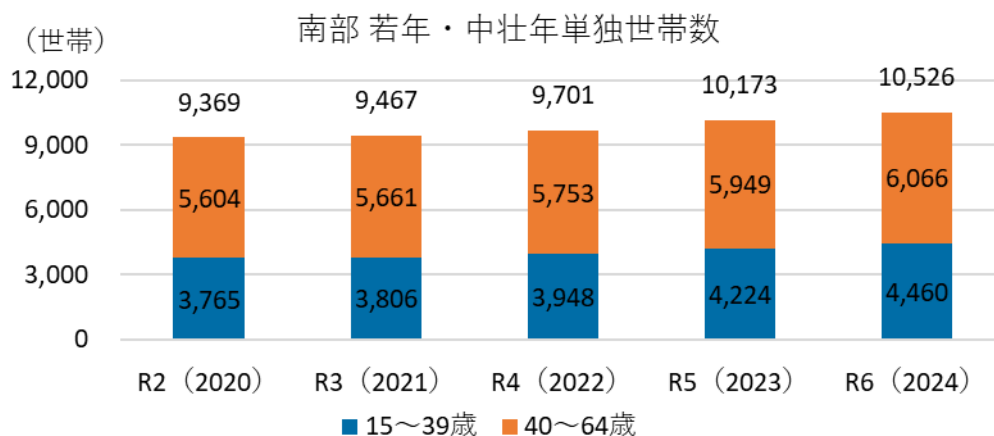
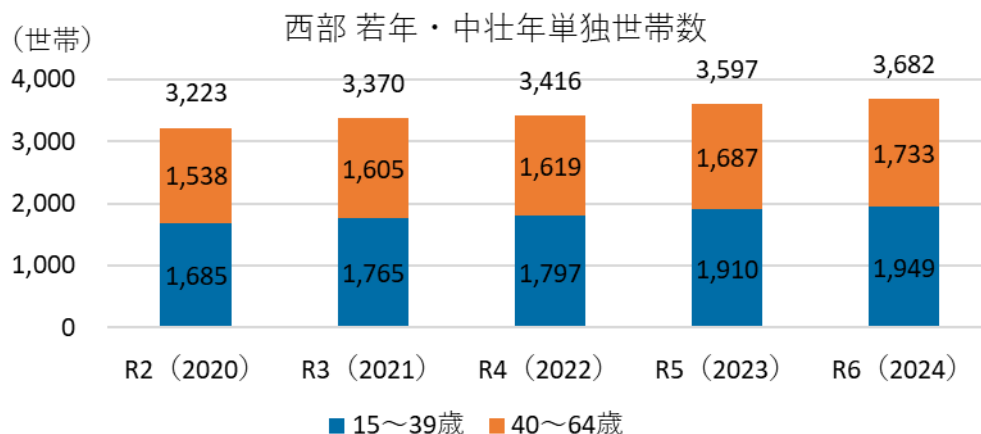


若年・中壮年層の単独世帯について7地域別に見ると、令和6年（2024年）の若年・中壮年単独世帯が多いほうから順に、中部（12,218世帯）、南部（10,526世帯）、中北部（10,156世帯）、北部（4,769世帯）、東部（4,759世帯）、北東部（4,268世帯）、西部（3,682世帯）である。

令和2年（2020年）から令和6年（2024年）にかけての増加数は、多いほうから順に、南部（1,157世帯・12.3%）、中部（1,131世帯・10.2%）、中北部（1,065世帯・11.7%）、北部（626世帯・15.1%）、東部（608世帯・14.6%）、西部（459世帯・14.2%）、北東部（273世帯・6.8%）である。

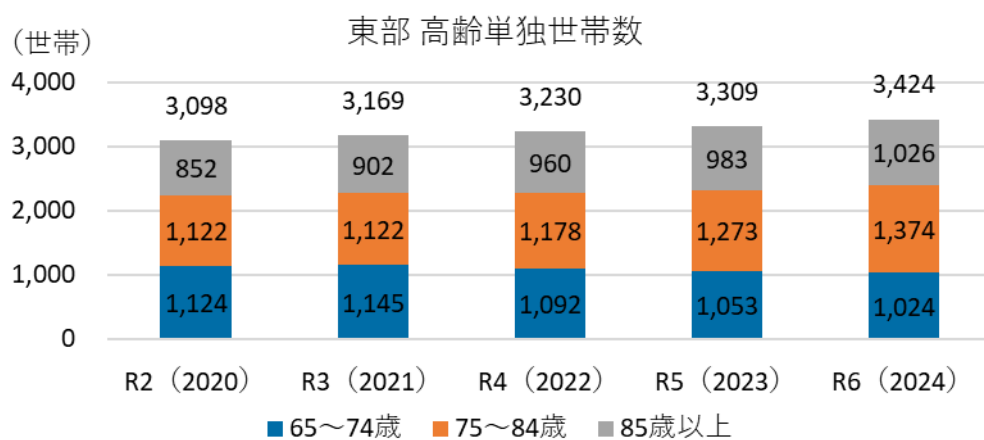
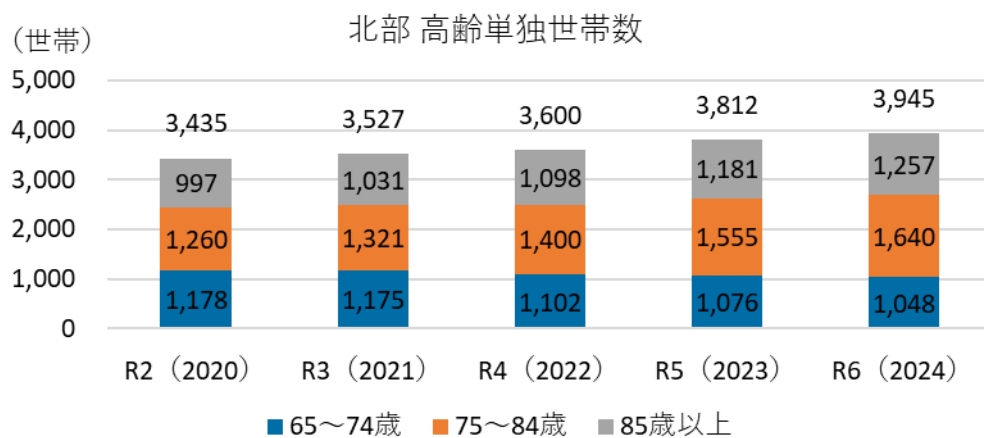
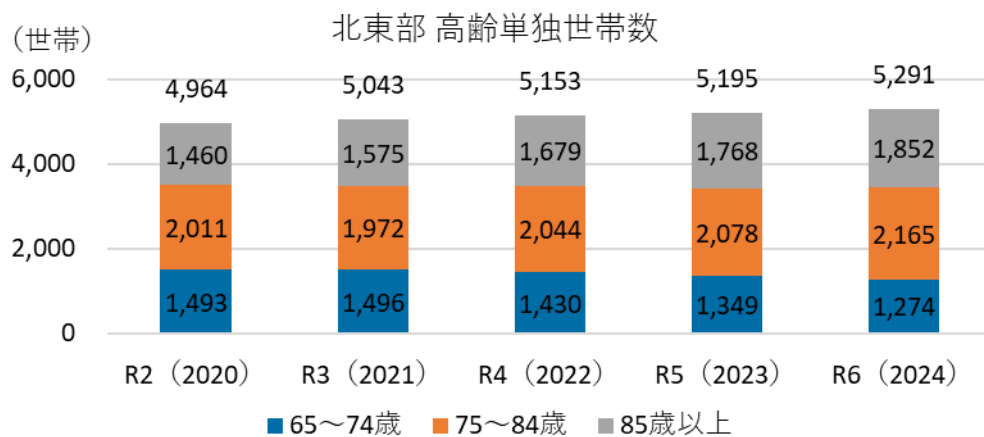


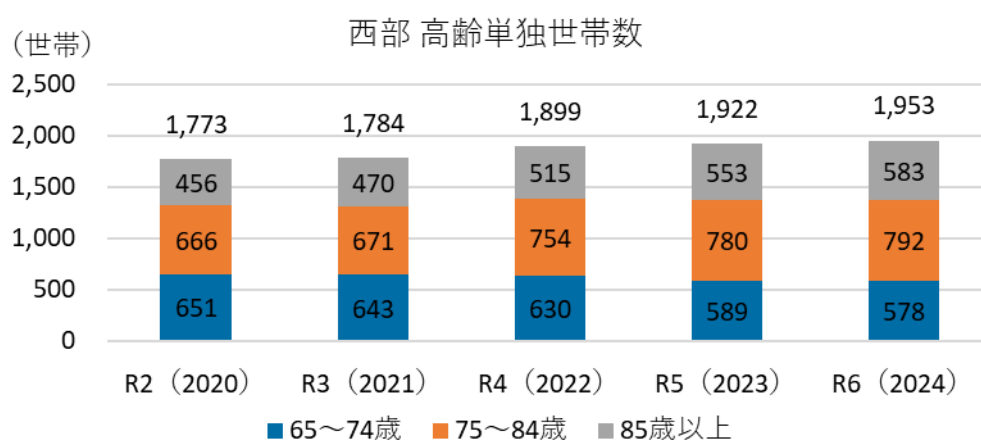
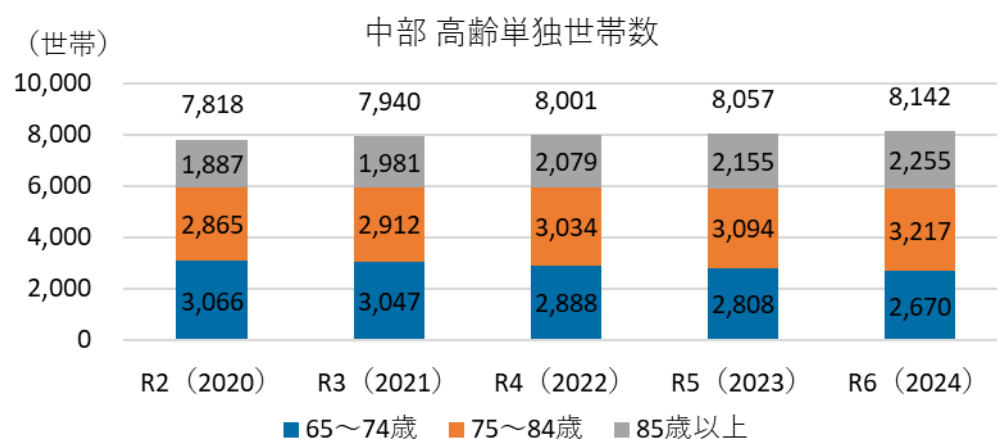
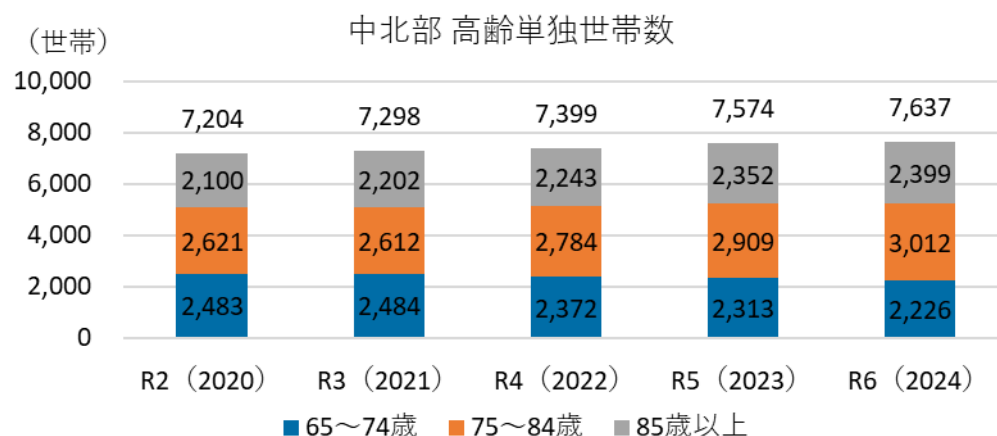


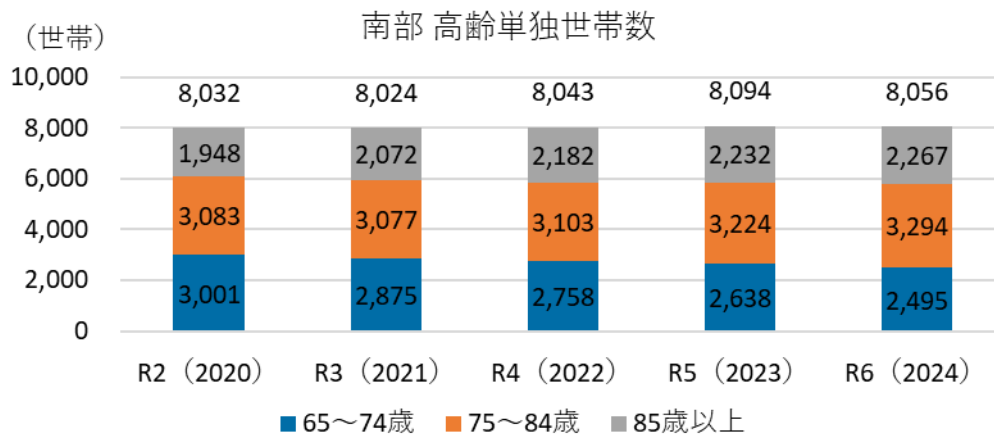


高齢単独世帯について7地域別に見ると、令和6年（2024年）の高齢単独世帯が多いほうから順に、中部（8,142世帯）、南部（8,056世帯）、中北部（7,637世帯）、北東部（5,291世帯）、北部（3,945世帯）、東部（3,424世帯）、西部（1,953世帯）である。もっとも高齢単独世帯が多かったのは、令和5年（2023年）までは南部だったが、令和6年は中部になっている。

令和2年（2020年）から令和6年（2024年）にかけての増加数は、多いほうから順に、北部（510世帯・14.8%）、中北部（433世帯・6.0%）、北東部（327世帯・6.6%）、東部（326世帯・10.5%）、中部（324世帯・4.1%）、西部（180世帯・10.2%）、南部（24世帯・0.3%）である。







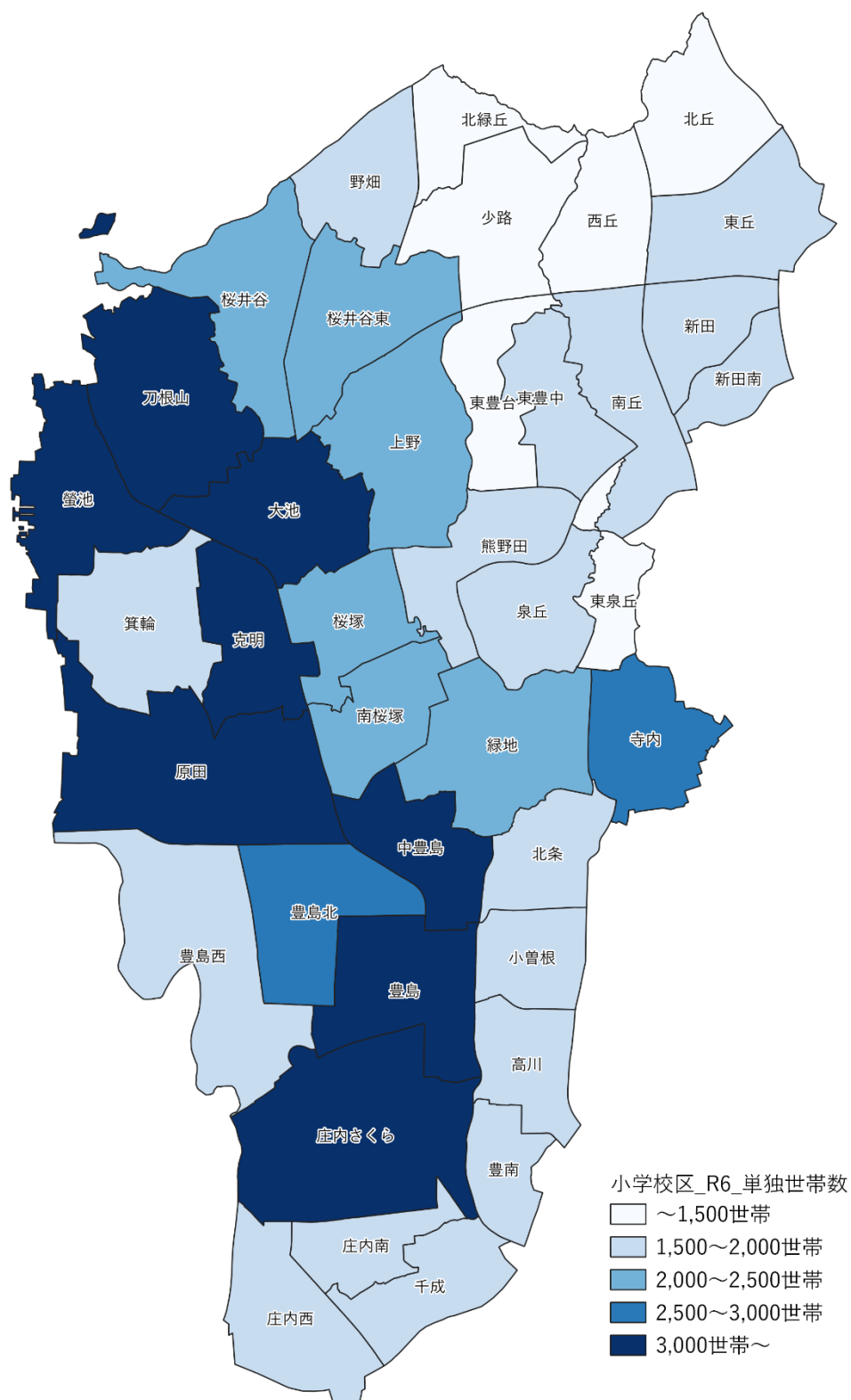
(3) 小学校区

令和 6 年（2024 年）の単独世帯数を小学校区別に見ると、単独世帯が多い校区は順に、庄内さくら（8,427 世帯）、豊島（4,689 世帯）、蜷池（3,638 世帯）、刀根山（3,415 世帯）、克明（3,155 世帯）である。

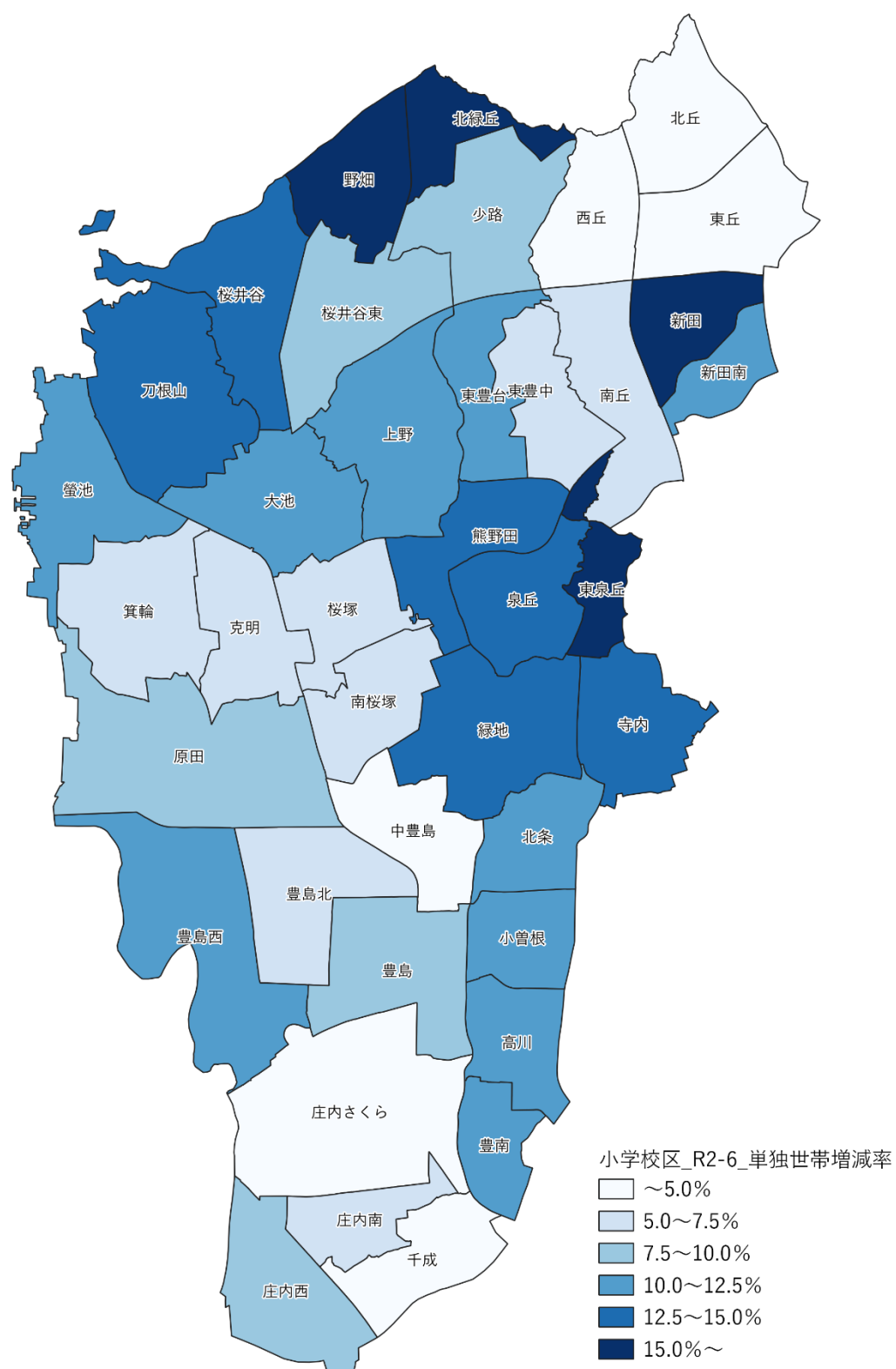
令和 2 年（2020 年）からの単独世帯数の変化を見ると、すべての校区で増加している。

単独世帯の増加率が高い小学校区					単独世帯の増加率が低い小学校区				
	R2	R6	増加数	増加率		R2	R6	増加数	増加率
北緑丘	1,102	1,418	316	28.7	北丘	1,362	1,397	35	2.6
新田	1,389	1,602	213	15.3	中豊島	3,050	3,150	100	3.3
東泉丘	822	948	126	15.3	東丘	1,882	1,952	70	3.7
野畑	1,626	1,873	247	15.2	西丘	1,143	1,188	45	3.9
寺内	2,222	2,553	331	14.9	千成	1,683	1,755	72	4.3

小学校区別 令和 6 年（2024 年）単独世帯数



小学校区別 令和 2～6 年（2020～2024 年）単独世帯増減率

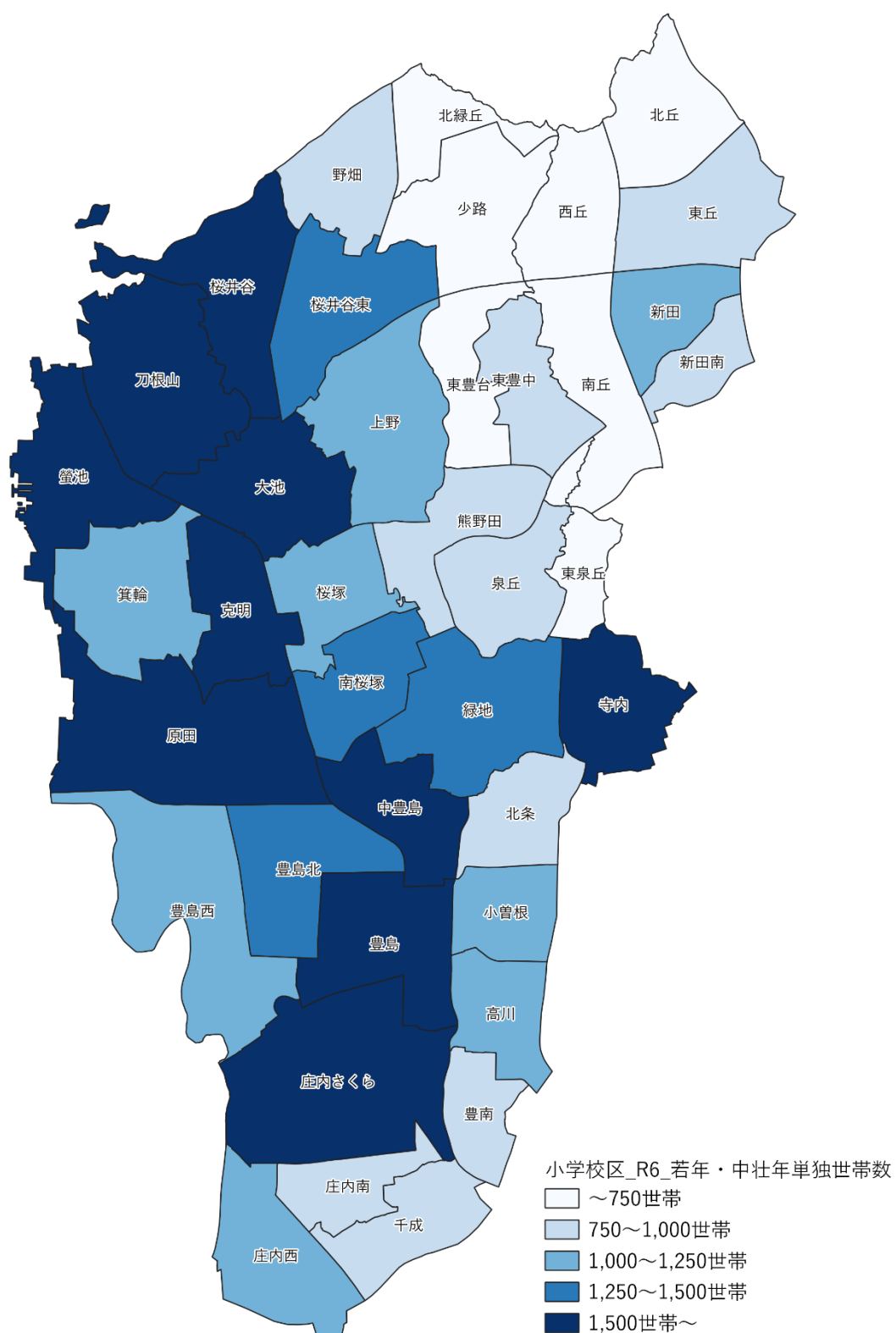


令和 6 年（2024 年）の若年・中壮年の単独世帯数を小学校区別に見ると、多い校区は順に、庄内さくら（4,911 世帯）、豊島（2,952 世帯）、蜚池（2,548 世帯）、刀根山（2,175 世帯）、中豊島（1,977 世帯）である。15～64 歳人口に占める単独世帯の割合が高い校区は順に、蜚池（37.5%）、豊島（36.2%）、庄内さくら（36.0%）、高川（29.4%）、庄内西（29.4%）である。同割合が低い校区は順に、少路（7.5%）、西丘（8.7%）、東泉丘（9.1%）、上野（10.2%）、泉丘（10.8%）である。

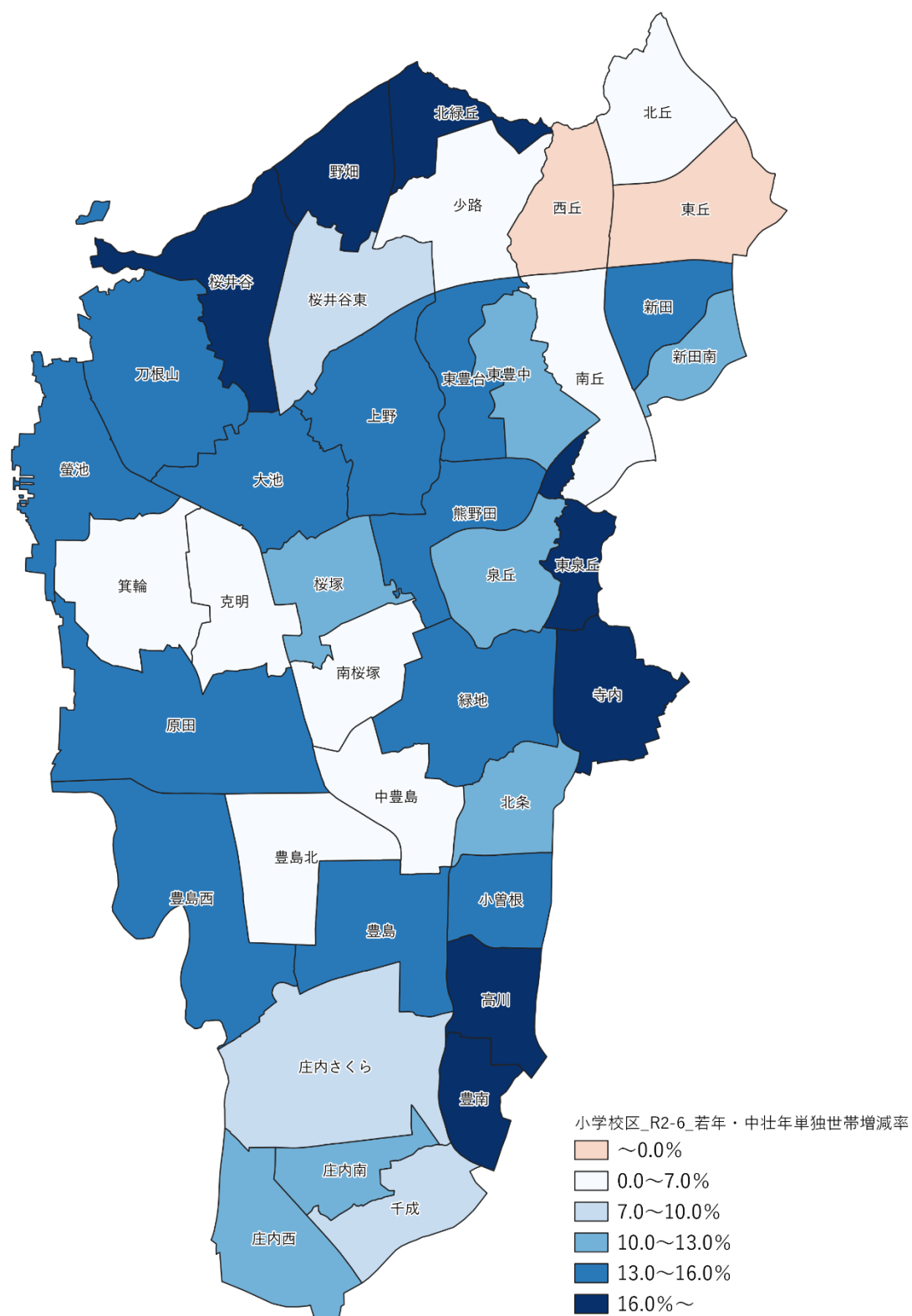
令和 2 年（2020 年）からの変化を見ると、減少しているのは東丘（▲11 世帯・▲1.4%）、西丘（▲10 世帯・▲2.3%）のみである。若年・中壮年の単独世帯の増加率が高い校区は、以下のとおりである。

若年・中壮年の単独世帯の増加率が高い小学校区				
	R2	R6	増加数	増加率
豊南	809	974	165	20.4
東泉丘	409	489	80	19.6
野畑	772	922	150	19.4
北緑丘	480	570	90	18.8
桜井谷	1,334	1,576	242	18.1
寺内	1,560	1,829	269	17.2
高川	980	1,140	160	16.3
熊野田	808	936	128	15.8
新田	919	1,062	143	15.6
緑地	1,133	1,306	173	15.3

小学校区別 令和 6 年（2024 年）若年・中壮年単独世帯数



小学校区別 令和 2～6 年（2020～2024 年）若年・中壮年単独世帯増減率

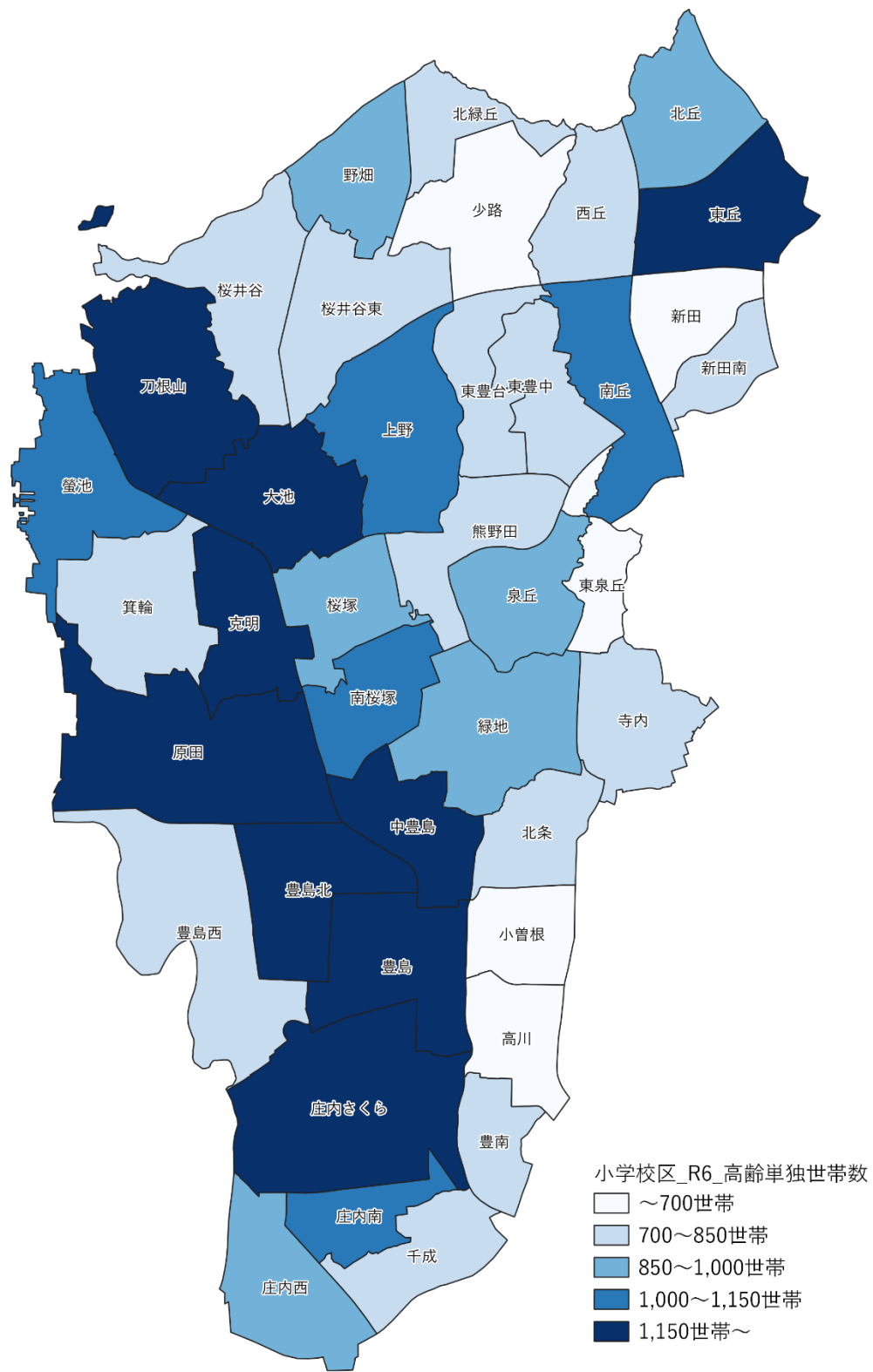


令和 6 年（2024 年）の高齢単独世帯数を小学校区別に見ると、高齢単独世帯が多い校区は順に、庄内さくら（3,516 世帯）、豊島（1,737 世帯）、刀根山（1,240 世帯）、大池（1,237 世帯）、原田（1,186 世帯）である。65 歳以上人口に占める単独世帯の割合が高い校区は順に、豊島（48.3%）、庄内さくら（47.9%）、庄内西（46.8%）、豊南（45.4%）、高川（43.1%）である。同割合が低い校区は、新田（24.5%）、少路（25.8%）、東泉丘（28.0%）、上野（28.5%）、桜井谷（29.8%）である。

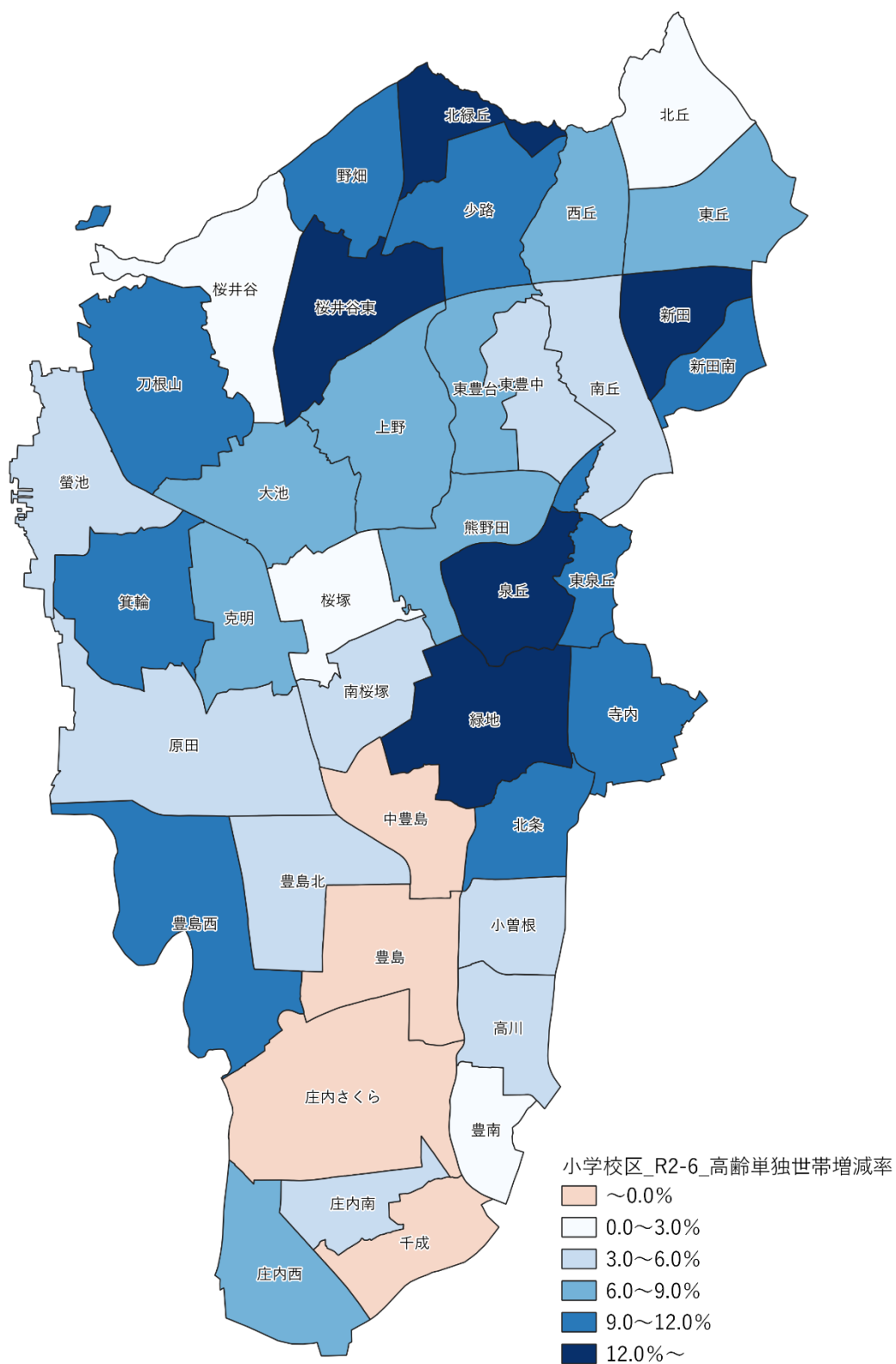
令和 2 年（2020 年）からの高齢単独世帯数の変化を見ると、減少しているのは庄内さくら（▲81 世帯・▲2.3%）、中豊島（▲17 世帯・▲1.4%）、千成（▲16 世帯・▲2.1%）、豊島（▲6 世帯・▲0.3%）のみである。高齢単独世帯の増加率が高い校区は、以下のとおりである。

高齢単独世帯の増加率が高い小学校区				
	R2	R6	増加数	増加率
北緑丘	622	848	226	36.3
新田	471	540	69	14.6
泉丘	772	883	111	14.4
緑地	794	906	112	14.1
桜井谷東	751	845	94	12.5
北条	712	796	84	11.8
野畑	854	951	97	11.4
東泉丘	414	459	45	10.9
少路	611	677	66	10.8
刀根山	1,123	1,240	117	10.4

小学校区別 令和 6 年（2024 年）高齢単独世帯数



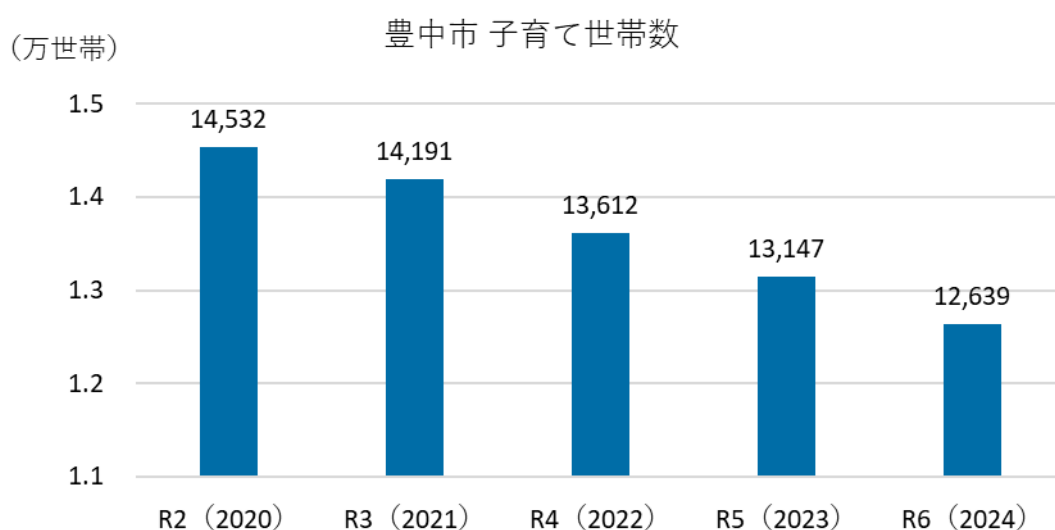
小学校区別 令和 2～6 年（2020～2024 年）高齢単独世帯増減率



2.3 子育て世帯

(1) 全市域

子育て世帯（0～4歳と世帯主がいる世帯）³について、令和2年（2020年）以降の推移を見ると、一貫して減少傾向にある。令和6年（2024年）の子育て世帯数は12,639世帯であり、令和2年から▲1,893世帯（▲13.0%）の減少である。平成30年（2018年）から令和4年（2022年）までの5年間の減少数は▲1,216世帯（▲8.2%）、令和元年（2019年）から令和3年（2023年）までの5年間の減少数は▲1,535世帯（▲10.5%）だったため、減少のペースは年々早くなっている。

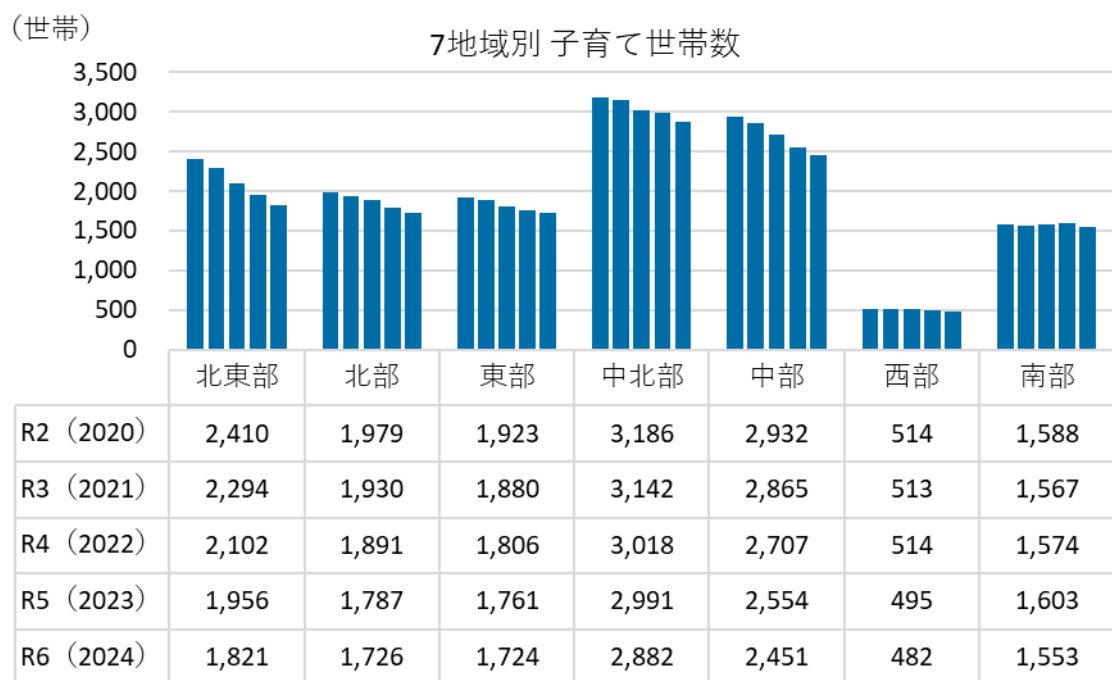


(2) 7 地域

令和6年（2024年）における子育て世帯数は、中北部（2,882世帯）、中部（2,451世帯）、北東部（1,821世帯）、北部（1,726世帯）、東部（1,724世帯）、南部（1,553世帯）、西部（482世帯）の順が多い。全世帯数に占める子育て世帯数の割合は、東部（8.2%）、北東部（7.1%）、北部（7.1%）、中北部（6.6%）、中部（5.9%）、西部（4.8%）、南部（4.8%）の順に高い。

令和2年（2020年）からの変化を見ると、すべての地域で減少傾向にある。減少数が多いほうから順に、北東部（▲589世帯・▲24.4%）、中部（▲481世帯・▲16.4%）、中北部（▲304世帯・▲9.5%）、北部（▲253世帯・▲12.8%）、東部（▲199世帯・▲10.3%）、南部（▲35世帯・▲2.2%）、西部（▲32世帯・▲6.2%）である。

³ 本レポートでいう子育て世帯とは、同じ世帯番号に0～4歳と世帯主がいる世帯をさす。



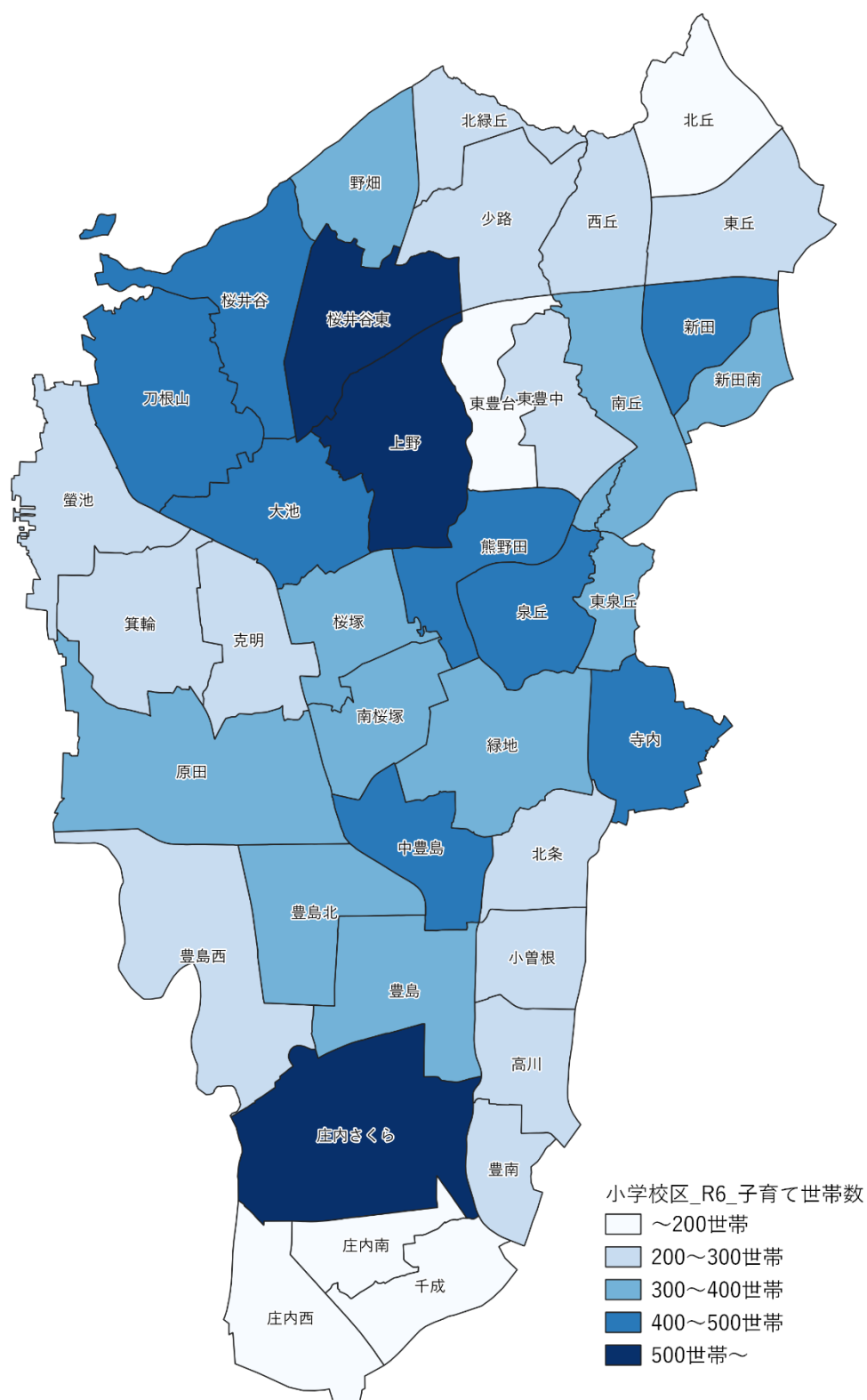
(3) 小学校区

令和 6 年（2024 年）の子育て世帯数を小学校区別に見ると、子育て世帯が多い校区は順に、桜井谷東（566 世帯）、庄内さくら（557 世帯）、上野（531 世帯）、寺内（488 世帯）、大池（452 世帯）である。

令和 2 年（2020 年）からの子育て世帯の増加率が高い校区、低い校区はそれぞれ以下のとおりである。

子育て世帯の増加率が高い小学校区					子育て世帯の減少率が高い小学校区				
	R2	R6	増加数	増加率		R2	R6	減少数	減少率
北緑丘	205	241	36	17.6	北丘	281	173	▲ 108	▲ 38.4
庄内さくら	510	557	47	9.2	東豊台	295	184	▲ 111	▲ 37.6
千成	168	178	10	6.0	南丘	527	369	▲ 158	▲ 30.0
小曽根	226	238	12	5.3	西丘	310	220	▲ 90	▲ 29.0
桜井谷	382	402	20	5.2	新田	589	425	▲ 164	▲ 27.8

小学校区別 令和 6 年（2024 年）子育て世帯数



小学校区_R2-6_子育て世帯

白	～▲20.0%
淡オレンジ	▲20.0～▲15.0%
オレンジ	▲15.0～▲5.0%
赤	▲5.0～0.0%
青	0.0%～